

1 ねらい

・教育活動、その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき教育活動・学校運営の改善を図る。

2 アンケート実施期間 令和2年12月

3 対象者 生徒879名、全保護者879名（生徒数）、全教員 54名

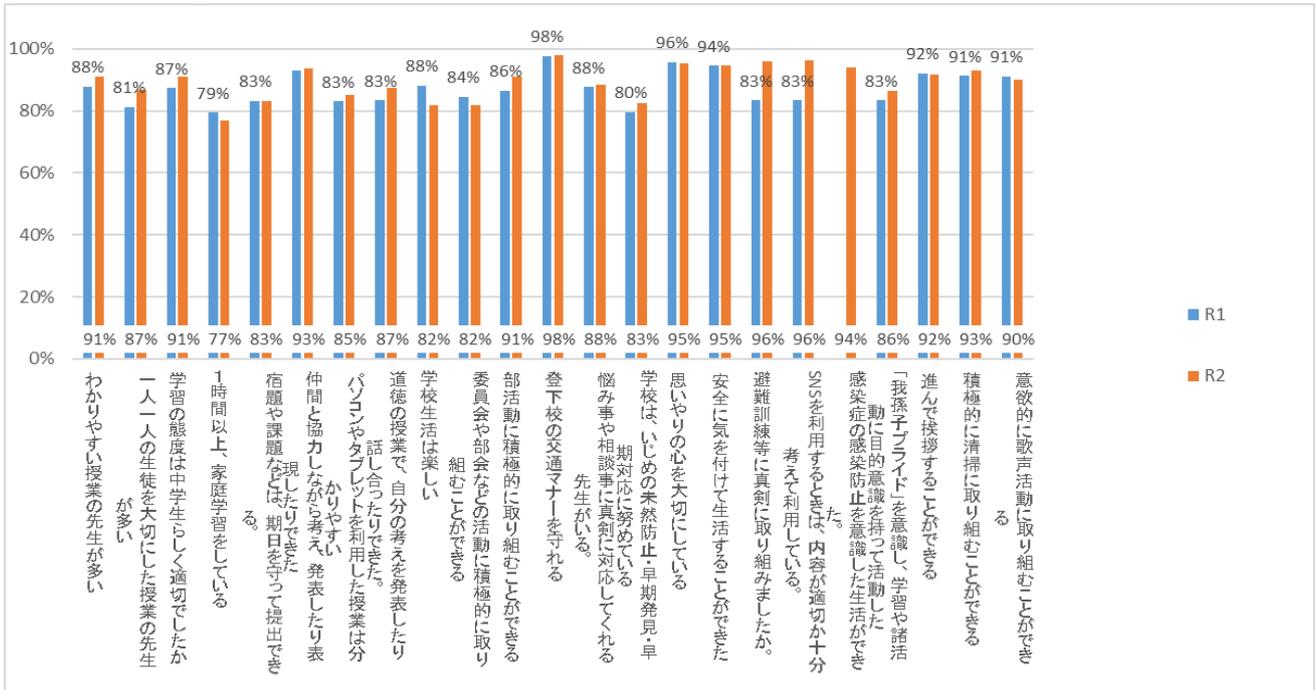
4 アンケート結果と考察

「そう思う、大体そう思う」と答えた生徒・保護者についての割合でグラフを作成。

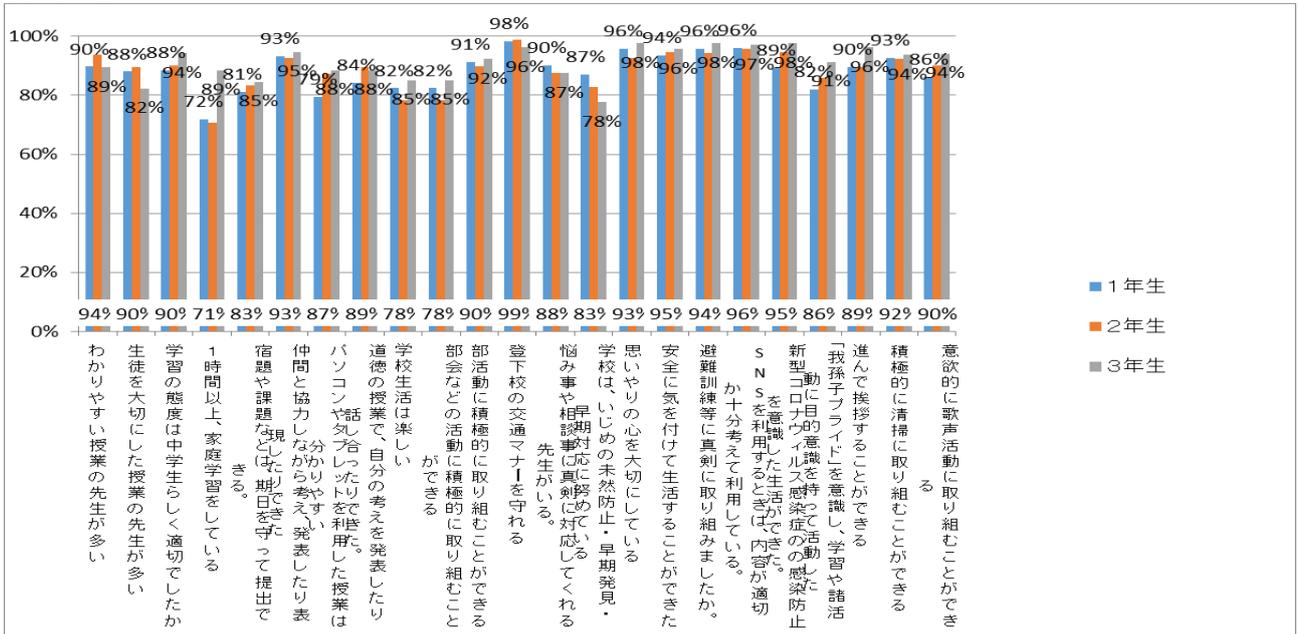
< 生徒 >

(1) 生徒の学習・学校生活などについて

【昨年度との比較】



【学年別】



**\*\*学習について\*\***

- ・「わかりやすい授業の先生が多い」「一人一人の生徒を大切にした授業」「学習態度は中学生らしく適切」と答えた生徒がともに9割近い。
- ・他の生徒と協力できたと考えている生徒が9割を超えている。
- ・「1時間以上家庭学習をしている」が昨年より減少した。3年生は1, 2年生に比べて高い。
- ・課題などの提出は、8割以上の生徒が期限を守ると答えている。学年が上がるにしたがって、提出の状況が良くなっている。
- ・「課題に対して、仲間と協力しながら自ら考え、発表したり表現したりすることができた」では、3学年とも9割を越えている。
- ・「パソコンやタブレット利用した授業は分かりやすい」(昨年は「分かりやすい」ではなく「楽しい」という質問)は昨年より高くなった。1年生がやや低い。

**\*\*学校生活について\*\***

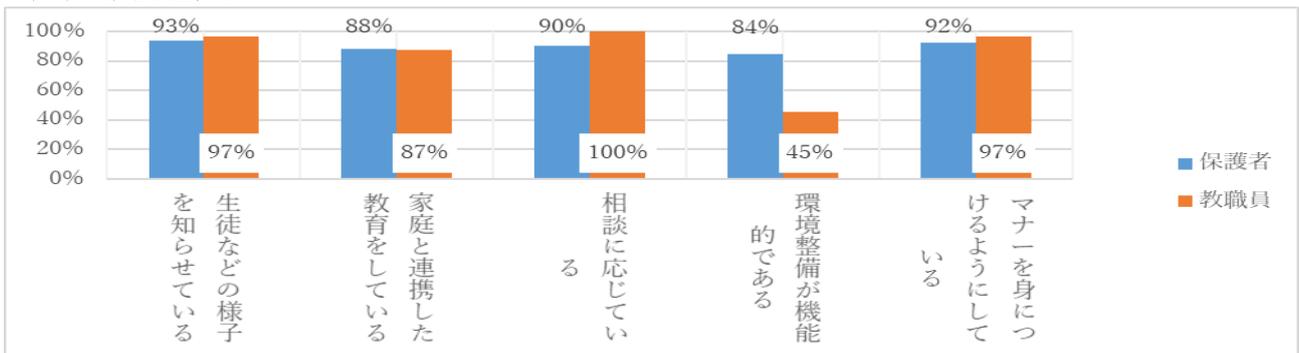
- ・学校生活への意欲、委員会や部会活動が昨年よりも下がっている。部活動については意欲が昨年より向上し、全学年で90%を超えている。
- ・「登下校のマナー」は昨年度と同様で、3つの学年とも意識が高い。
- ・「思いやりの心を大切にしている」と回答した生徒の割合が、高い水準を維持しており、相手の気持ちや立場になって考えようとする生徒が増えている。

**\*\*教師・学校の取組\*\***

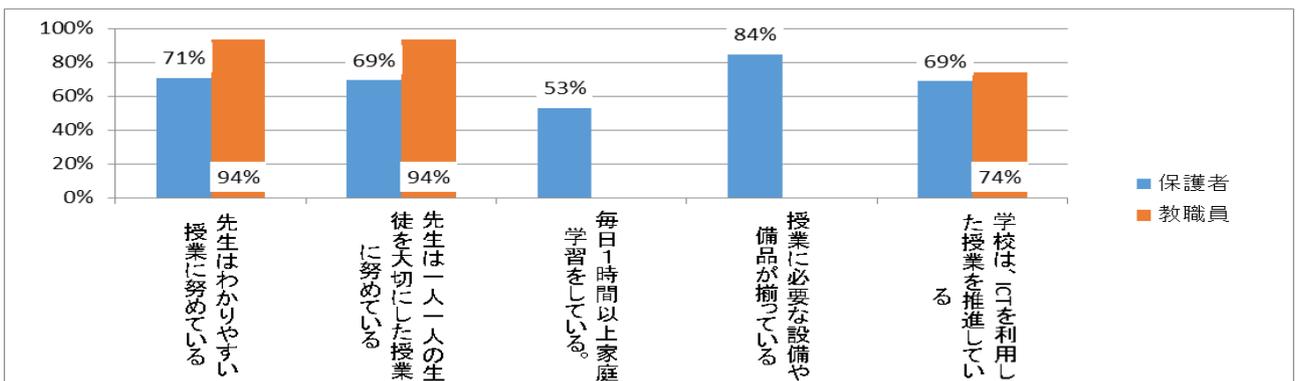
- ・「悩み事や相談事に真剣に対応してくれる先生がいる。」は昨年と同程度であるが、学年が上がるに連れて下がる傾向がある。
- ・「いじめのない学校づくり」への取組は、昨年度よりもやや良くなっているものの、2割程度の生徒が足りないと考えている。特に3年生は約4分の1の近くの生徒が足りないと考えている。いじめのない学校の実現に向けて、市教委や外部機関と連携しながら、さらに学校全体で取組を強化していく。

**< 保護者 > ~ 教師と保護者と教師（と生徒）の回答を比較 ~**

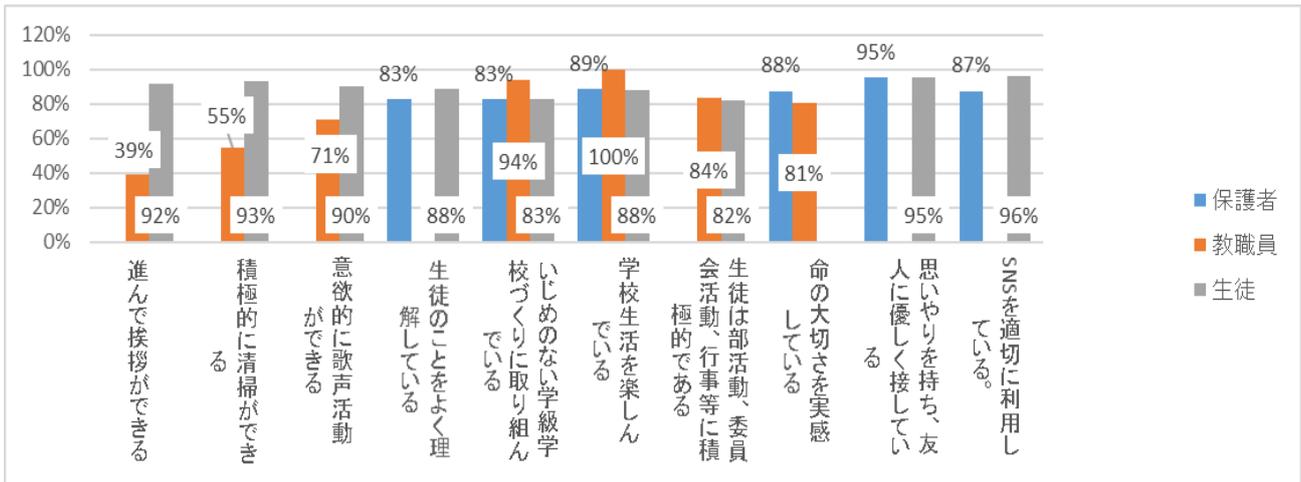
**(1) 学校運営について**



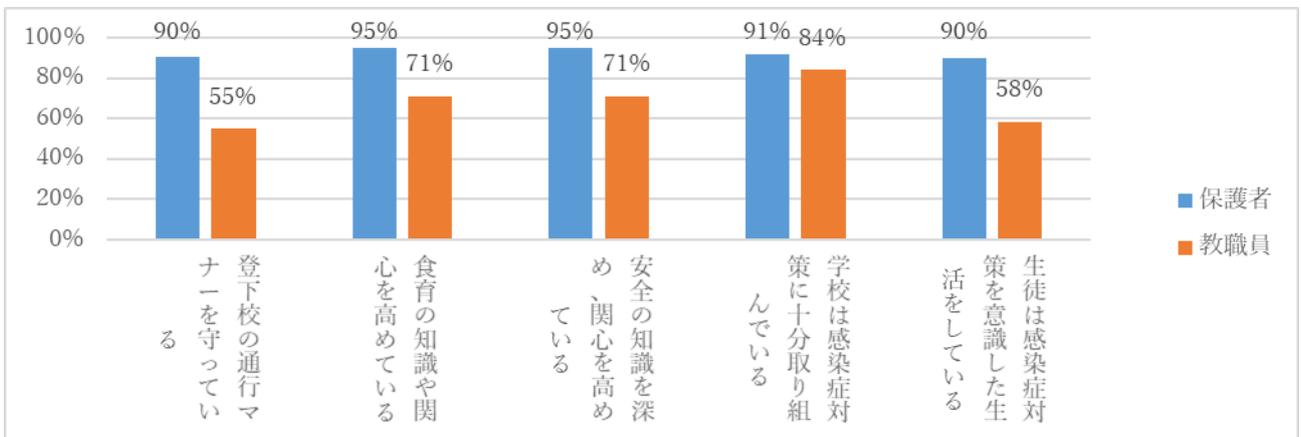
**(2) 学習指導**



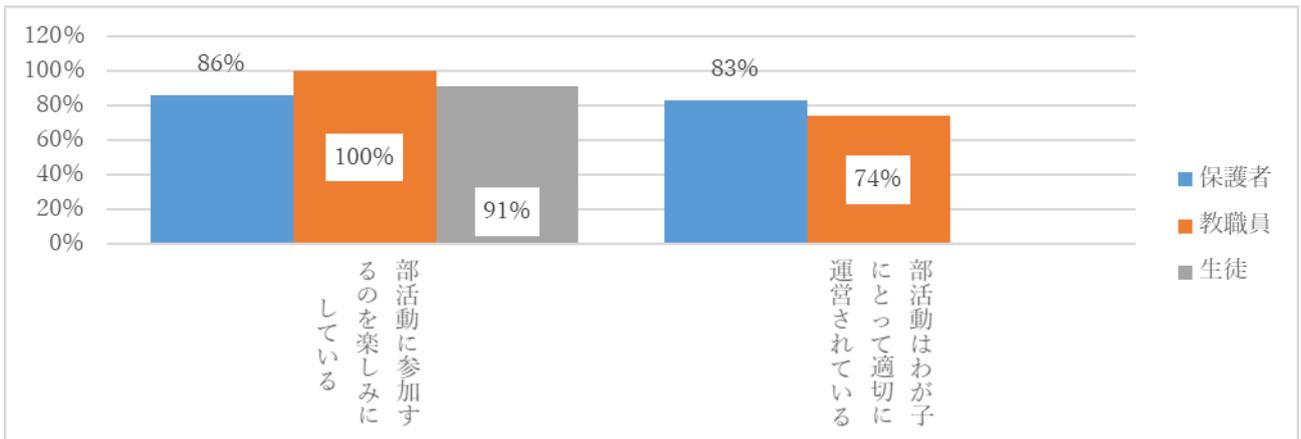
### (3) 生徒指導について



### (4) 健康・安全面について



### (5) 部活動について



#### \*\*学校運営について\*\*

- ・学年・学校・学級だよりを通しての広報について、評価は90%を超えている。
- ・家庭との連携については、保護者・教師がほぼ同数である。また、昨年の数値ともほぼ同数である。
- ・「先生はわが子のことについて、適切に相談に応じている」ではやや教師の方が高いが、保護者も昨年の82%から高くなっている。
- ・環境整備については、昨年よりも保護者が10ポイント高くなり、教師は5ポイント下がっている。
- ・社会ルールやマナーの指導については、保護者・教師ともに昨年よりもたかくなっている。

## ＊ ＊学習指導について＊ ＊

- ・学年・学校・学級だよりを通しての広報について、評価は90%を超えている。
- ・「分かりやすい授業」「一人一人を大切にした授業」「学力を高める努力」では、肯定的な評価をした保護者の回答が5割から7割で、教師・生徒の肯定的な評価と大きく離れている。
- ・「対話的な学び」等の質問については、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、対話的な授業を積極的に展開できなかったのが割愛した。
- ・ICTを利用した授業の推進については、保護者の3分の1、教師の4分の1が肯定的ではなかった。

## ＊ ＊生徒指導面について＊ ＊

- ・「挨拶」「清掃」「歌声」について、保護者・生徒と教師の間で、評価に差が出ている。しかし、昨年度と比べて、生徒・教師の全ての項目でポイントが伸びている。
- ・また、いじめのない学校・学級づくりでは、教師の肯定的な評価が90%を越えている。保護者・生徒は昨年度より評価が良くなっているが、まだ、5分の1は否定的な評価をしている。
- ・「思いやりを持ち、友人に優しく接している」では、保護者・生徒ともに90%を超えている。昨年よりも、両方とも5ポイント以上伸びている。
- ・SNSの利用については、95%の生徒が意識を高め利用している。昨年よりも6ポイント向上している。

## ＊ ＊健康・安全面について＊ ＊

- ・「登下校の交通マナー」については、保護者の肯定的な回答は9割で、昨年よりも8ポイント伸びている。しかし、教職員の肯定的な回答は5ポイント下がっている。
- ・食育の充実については、保護者・教職員ともに昨年よりもポイントが伸びている。
- ・「安全への知識を深め、関心を高めている」では、保護者のポイントは伸びているが、教職員のポイントは下がっている。

## ＊ ＊部活動について＊ ＊

- ・「部活動を楽しみにしている」という評価が保護者・教職員・生徒ともに昨年より大きく伸びている。
- ・「部活動が適切に運営されている」は、昨年よりも保護者のポイントが伸び、教職員のポイントが低下している。

※PTA活動についての項目と生徒の地域行事への参加については、コロナウイルス感染症の影響で、活動の多くができなかったため、質問から除外した。

## <全体を通して>

今年度はいわゆる「コロナ禍」での学校運営で、様々な面で例年とは異なる対応が求められた。4月から2か月間の休校があり、その期間中の学習保障対策を実施し、授業時数確保のために夏休み・冬休みの短縮を行った。また、古都体験学習(修学旅行)・自然体験学習(林間学校)の中止をはじめ、たくさんの行事で中止・縮小・方法の見直しなどの対応をせざるを得なかった。また、部活動も主要大会・コンクールなどが中止になったり、活動の停止期間・制限をせざるを得なかったりした。その中で、生徒の育成のために何が可能かを常に考え、検討を重ね教育活動を実施してきた。

### ① 学習指導

- ・本年度は、「対話的」な授業を制限せざるを得なかった。講義式の授業が多くなる中であつたが、生徒の授業に対する肯定的な意見が多かった。また、協力して授業ができたという生徒が9割を越えた。プリントを工夫して作成し教具を工夫したりする職員がいたり、タブレットを利用して「対話的」な授業を展開する職員がいたりしたことが功を奏したと思われる。
- ・「1時間以上家庭学習をしている」生徒が昨年と比べて減少した。今年度は自宅で学習する機会が十分にあつたが減少することとなり、どう学習を進めていくのかを指導する必要性を感じた。3年生は昨年よりも増加しており、1, 2年生への指導を充実させていきたい。
- ・「宿題・課題の提出」について、全体としては昨年と同様であつた。しかし、昨年は学年が上がるにつれ

ポイントが下がる傾向にあったが、今年度は学年が上がるにつれて高くなっている。休校期間中の課題が多く出され、1年生を中心に適応しきれなかった生徒がいたと考えられる。負担が過重にならないように見計らいながら、課題を設定していくようにしたい。

- ・「パソコンやタブレットを利用した授業は分かりやすい」が昨年よりも伸び、ICT機器を扱うことが楽しい段階から、ツールとしての利用ができてきている段階になったと推察される。昨年度よりタブレット端末を利用した授業に取り組んできた成果と考える。しかし、保護者だけでなく職員の中にも、まだ推進が不十分という意見がある。これは、全職員が利用できてはいないことによるものと推察できる。職員の研修を重ね、活用できる職員の育成を進めていく必要があると考える。

## ② 生徒指導

- ・自転車の乗り方、登下校のマナーなどについての生徒の意識は高い状況である。しかし、住民の皆さまからマナーに関する連絡をいただくことも少なくない。特に、6月に学校を再開した際に、1年生の乗り方についてのご指摘を多くいただいた。職員による安全指導を強化するとともに、各家庭や地域、生徒会活動（安全委員会）と連携して、安全指導に努めていく。
- ・携帯やメール、SNS等の使い方について、生徒の意識が高まっていることが伺える。昨年より、SNS等による生徒間トラブルは減少したが、まだ発生している。また、課金トラブルなど、不適切と思われる利用も起こっている。保護者・PTAの協力を仰ぎながら、スマートホンの適正使用の指導を行いたい。
- ・挨拶の指導については、昨年度設立した「さわやか杯」を本年度も実施し、体育祭で一定の成果を得た。「我孫子プライド」をスローガンに、生徒の意欲高揚を図り、歌声にも成果が見られた。委員会活動を活性化し生徒会とも連携し、引き続き啓発に取り組んでいく。
- ・いじめのない学校づくりについては、保護者・生徒ともに昨年度よりも肯定的な評価が増えた。しかしながら、まだ約5分の1の保護者・生徒が不十分と考えている。SNSの利用によるトラブルは昨年度より減少しているが、無くなったわけではない。「いじめは許さない」という姿勢を教師・生徒と共有し取り組みを継続したい。道徳の授業や生徒会活動を通して、継続的な啓発を行いたい。

## ③ 健康・安全面について

- ・感染症対策については、9割を越える保護者・生徒が肯定的である。教職員の「生徒は感染症対策を意識した生活をしている」の評価が低いのは、生徒のソーシャルディスタンスを指導したり、毎日生徒の健康カードを確認したり、より感染対策に神経を使う機会が多いからと考えられる。本校では、今まで感染予防に努めてきたが、今後も取り組みは続けていきたい。
- ・「食育の知識・関心を高めている」のポイントが昨年よりも高まった。献立表の裏面を活用して、食育に関する記事を掲載したり、掲示物を作ったりしていることが功を奏した。今後も続けていきたい。

## ④ 部活動について

- ・昨年よりも「部活動を楽しみにしている」の評価が高くなった。今年度の部活動は、年間を通して制約がある中で活動している。部活動ができる喜びを感じている人が多いことの表れと考える。今後も制約のある活動が続くが、その時の状況によりできることを見極め、活動をしていきたい。

## ⑤ その他

- ・本年度は、行事の中止やいろいろな制限で、更新が十分できないこともあったが、できる限りHPの更新を行い情報提供や発信を続けてきた。学校の様子を伝える手段として、来年度も取り組んでいきたい。
- ・授業の保護者参観が、今年度は1度も実施できていない。3学期に計画をしているが、状況により実施できない可能性もある。歌声コンクールを参観していただくことができたとき、保護者の方の喜びの声とたくさんの方の励ましの言葉をいただいた。今後も厳しい判断が続くが、適切に判断し、できる限り実施できるようその方法を模索していきたい。
- ・ICTを活用して、全体で集まらずに始業式・終業式を行うなど、その活用方法を模索してきた。来年度はICT環境が少しずつ充実してくるので、より活用できることを増やしていけるように努力したい。

## 【学校関係者評価】

- ・生徒・保護者の評価よりも、職員の評価がとても低い項目がある。設備の整備に関することと、生徒指導のあいさつや清掃に関することなどがそうだが、どんな理由が考えられるか。
- ・新年度を迎えるにあたり、状況を市に伝えて、予算を立てる時に配慮してもらえるように努力してほしい。
- ・生徒、保護者の評価と離れすぎている。生徒を街で見かけると挨拶は良くしていると感じる。職員の評価は厳しすぎると思う。
- ・学習に関する生徒・保護者の評価が、昨年よりも良化傾向にあることは素晴らしい。生徒一人一人に目を向ける指導を継続してほしい。
- ・休校期間の影響で、教育課程がタイトになったが、習熟度の低い生徒が置き去りにされていないかが心配。補習を適時に行うなど工夫をしてほしい。
- ・学校に来られない生徒を来られるようにできることが理想だが、どうしても来られない生徒や適応指導教室を利用する生徒への学習保障の充実を図ってほしい。タブレット端末の貸し出しができるようになると良い。
- ・リモートを活用した学習指導ができるようになることを目指すのが良いと考える。学校に来られない生徒でも、学習意欲のある生徒にはICTを活用してインターネットを利用してカリキュラムを組んで学習できるようになると良い。出席として認定できる道も開ける。
- ・ホームページの更新がされていて、コロナ禍の教育に工夫がなされて実施されている様子が分かった。
- ・様々な意見があるのは事実だが、多くの保護者はホームページの更新を楽しみにしている。続けてほしい。
- ・来年度の変わる制服について、多様性を認める素晴らしい取組と考える。この取組が広がっていくように、発信をしてほしい。これから制服を変える学校へ、ノウハウを伝えてほしい。
- ・学習などに対する学校評価が、生徒・教師の評価より保護者の評価が低い傾向がある。保護者にもっと発信する必要がある。本年度は授業参観や保護者会がなかなか実施できなかったのも、なおさらである。
- ・リモートの授業参観や保護者会を検討するのもよいと思う。パスワードをかけて、公開期間を決めるなど、方法は複数考えられる。情報の双方向性を確保しながらできると良い。
- ・学校評価で、教師・保護者・生徒の間で開きができてしまう内容については、距離を縮める努力が必要である。生徒との協働をすれば、生徒との距離感が縮まるし、発信をすれば保護者との距離感も縮まる。根気強く努力を継続してほしい。

学校関係者評価でいただいた評価・提言を厳粛に受け止め、今後の学校経営に生かしてまいります。